



大学祭でにぎわう下関市立大学(☎252-0288)で学生と歓談(10月23日)

## 市民と市長を結ぶコラム

### 市長室から

# こんにちは

## 「みんなのために…」を考える 下関市立大学へ

**こ**

こんにちは。市長の中尾友昭です。10月23日、大学祭「馬関祭」でにぎわう下関市立大学(大学町二丁目)を視察しました。

同大学は、1956年に開学した下関商業短期大学を前身とし、1962年に4年制の下関市立大学へ、2007年に公立大学法人になりました。中国・青島市、韓国・釜山広域市、トルコ・イスタンブール市の各大学と交流協定を結び、本市の姉妹・友好都市との国際交流の一翼を担っています。

来年は、公共マネジメント学科を新設します。同学科では、経済学や経営学を基盤に、「みんなのために…」を考える「公共的な調整能力と戦略的な経営能力を身に付けた人材」の育成を目標としており、有用な人材を次々と輩出することを大いに期待しています。

来年度は、新校舎も完成します。5階建ての新校舎は、国の重要文化財である旧下関英国領事館をイメージして設計。下関市にふさわしい歴史的な重厚感を持ち合わせた現代的建築物を目指しています。

下関市立大学は、地域に根ざし

**私**

「市民の大学」としての役割も担っています。地域社会は、さまざまな問題を抱えています。同大学はそれらの問題を考え、解決策を探る、地域に根ざした教育と研究を行っています。大学の知的資源を積極的に市民に開放し、活用することが「市民の大学」としての役割であると考えています。

も、来年4月から、市民の一人として公務のない夜間や休日に、下関市立大学の大学院生として学びます。研究テーマは、「地域内分権」。本庁の機能充実と共に、総合支所の責任と権限を与える「地域内分権」の推進を研究し、成果を市政運営に反映させたいと考えています。

下関市立大学では、市民向け公開講座などを開講しています。生涯教育の一つとして、多くの市民の皆さんの参加を待っています。

大学の講座のほかにも市内各公民館などで、さまざまな講座や教室が開かれています。市民の皆さんにも生きがいづくりのための活動として、ぜひ生涯学習に取り組んでほしいと考えています。そして、一緒に心豊かで元気な生涯現役社会を目指していきましょう。



桜山招魂社

下関駅から筋川方面のバスに乗り、厚生病院前のバス停から歩くこと約5分。坂道を登って行くと、桜山神社(上新地町二丁目)の鳥居が見えてきます。

名前が示すとおり、神社には桜の木が多く、春は美しい景観が広がります。

桜山神社の前身である招魂社は幕末、同志たちの慰霊を目的に建てられました。高杉晋作の発議によるものと伝えられています。

いってみよう!みてもみよう!  
しものせき  
ナビ  
vol.8

龍馬紀行  
桜山神社



問い合わせ 長府博物館  
☎245-0555

社殿の奥には、吉田松陰や高杉晋作をはじめ多くの神霊が祭られており、わが国で最初の招魂社でもあります。

この招魂社に、坂本龍馬と同じ土佐出身の佐々木高行が慶応3年(1867年)に訪れていました。彼の日記によれば、下関に立ち寄った際、招魂社に訪れたと訪ねた後、招魂社に行ったとされています。佐々木は下関に慣れていなかったでしょうから、龍馬夫妻が案内役として、招魂社を訪れていたかもしれません。

妻のお龍は龍馬の死後、「武士(ものゝぶ)のかばねはここに桜山 花は散れども名こそ止(とど)むれ」と歌っています。命を賭けて戦った志士たちへの賛辞と、愛する人を失ってしまったお龍の独り言にも聞こえます。